

人形浄瑠璃 猿八座

2020年サントリー地域文化賞受賞



2021年
公演開催



あみだのむねわり

「阿弥陀胸割」



10月31日(日)

13:00 開場 13:30 開演 15:00 終演予定

< 猿八座 >

浄瑠璃 渡部 八太夫
人形 西橋 八郎兵衛
逸見 八里 / 堀 八島
山口 彦八 / 長谷川 眞八
石井 紫猿 / 和泉 猿丸
篠田 八助
舞台監督 高橋 八重

< 解説 >

川村 知行(上越教育大学名誉教授)

会場：ドナルド・キーン・センター柏崎 3階多目的ホール
定員：各回 50名(要予約)
参加費：無料(コロナ収束祈願イベントにより)
※ただし入館料が必要です。
問合せ：電話・FAX 0257-28-5755

ドナルド・キーン・センター柏崎
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI

あみだのむねわり

「阿弥陀胸割」解説

古浄瑠璃の中でも人形を伴って上演された記録の上では最古(1613年)の作品「阿弥陀胸割」。その伝本のうち、初演当時に出版された「古活字版 阿弥陀胸割」を、猿八座座長、西橋八郎兵衛が原本から翻刻し、猿八座の演目としました。

舞台はインド、お釈迦様が生きていた時代。豊かな財宝と不老長寿に飽きた長者夫婦は、退屈凌ぎに寺に火をつけるなど悪行を働き、地獄に堕ちます。遺された幼い姉弟は物乞いとなって流浪しますが、悪行を尽した親とはいえ供養したいと、別の長者の息子の病を治すため、姉が生き胆を売って金色の阿弥陀堂を建てます。野原で生き胆を取られた姉の死骸は消え、阿弥陀堂へと血が滴り落ちていました。痕を辿っていくと、姉は弟と共に阿弥陀様の前でスヤスヤ眠っていました。阿弥陀様が姉弟の孝心に感じ、身代わりとなられたのです。黄金阿弥陀像の胸が割れて血が流れていました。

戦乱の世が終わった江戸時代の初め、京都四条河原に並ぶ庭掛の芝居小屋で評判になった「阿弥陀胸割」は、院の御所でも上演されました。当時の人々はこの芝居に何を観たのでしょうか。科学の進歩で寿命が延び、一見豊かになった現代人も四苦(生、老、病、死)から逃れることは出来ません。四百年眠っていた古浄瑠璃を猿八座が蘇らせました。是非、ご覧下さい。



猿八座 (2020年 サントリー地域文化賞受賞)

佐渡の猿八に暮らす座長・西橋八郎兵衛氏が1995年に旗揚げ。猿八座の人形浄瑠璃は、佐渡に伝わる古浄瑠璃「文弥節」(国指定の重要無形民俗文化財)をもとに渡部八太夫が節付けし、人形も佐渡の文弥人形と同じく一人遣いで演じられます。

現在は、座員が集まりやすい新発田市真中に稽古場を置き活動中。何百年と上演が途絶えている数多くの説経、古浄瑠璃の中から、現代向きの作品を選び出し、復活上演に取り組んでいます。

<座員募集中！>

柏崎近隣では、高柳地区にて人形・三味線・衣装づくり等を座長自ら指導し活動中です。

(問合せ：080-2012-9115 西橋)